

# 繼續事業評価調書

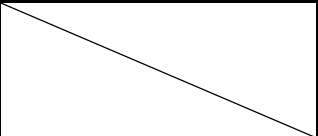
## 【農道整備事業】

農政環境部農林水産局農地整備課

投資事業評価調書（継続：再評価〔第2回〕）

部課室名	農政環境部農林水産局 農地整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	課長 二位 孝夫 (係長 岩崎 良信)	内線	4003 (4014)	
事業種目	農道整備	事業採択年度	H6		H20末時点	再評価時点
事業名	広域営農団地農道整備事業	着工年度	H6	総事業費	132億円	150億円
		再評価年度	H15	内用地補償費	27億円	31億円
事業区間	南淡路地区			完成予定年度	H25	H23
所在地	南あわじ市阿万上町～洲本市千草			進捗率 (用地補償進捗率)	80%(84%)	44%(51%)
				残事業費	27億円	
事業の目的				事業内容		
<p>本地区は玉ねぎ、レタス、キャベツ、白菜、水稻等の多毛作地帯である三原平野の農地を受益地とし、県下有数の乳用牛、肉用牛の飼育が盛んな地域特性を生かした、野菜と畜産の地域複合経営農業地帯である。</p> <p>この地域の農畜産物は、主に国道28号線と神戸淡路鳴門自動車道を經由して京阪神等へ出荷されているが、南あわじ市と洲本市の間を広域的に結ぶ道路は国道28号線一本しかなく、一般交通量が多いため、農畜産物の輸送に支障となっている。</p> <p>このような状況を改善するため、両市の間を広域的に結ぶ新たな基幹農道を整備し、農畜産物輸送の合理化を図ることとした。</p>				<p>農道新設 延長17.0km (残事業量 道路工3.9km、舗装工4.8km) 全幅10.75m 車道幅員3.0×2車線 受益面積 4,234ha 計画日交通量4,700台 (農業3,451台、農業外1,249台) 工事費の負担割合 (国:50%、県:35%、市:15%) 事業主体 兵庫県</p>		
事業を取り巻く社会経済情勢等の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>国においては基本方針として平成27年度に食料自給率を45%とする目標が掲げられた。</li> <li>輸入農産物の安全性への不安から、国産農産物への期待が高まっている。</li> <li>平成15年度の再評価時点における完成予定年度は平成23年度であったが、地価の下落により用地交渉が難航したこと（地価下落率約50%）や今後地区訂正手続きに時間を要することにより、平成25年度まで工期を2カ年延期する必要があるが生じた。</li> <li>総事業費は農道事業発生残土のは場整備工事等への再利用による処分費の縮減等により、18億円を圧縮する予定である。</li> </ul>					
進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>工事は全延長17.0kmの内、平成20年度末で13.1km区間の道路工整備を完了する予定（延長ベース77%、事業費ベースでは80%）。なお、11kmで供用開始済（延長ベース65%）。</li> <li>用地は平成20年度末で14.7kmの取得予定である（延長ベース86%、事業費ベースで84%）。</li> </ul>					
評価視点	評価結果の説明					
(1)必要性	<p>本農道の受益地である南淡路地域では県下の約3分の1を占める認定農業者(785人)が存在し、これらの農家を中心とした三毛作等により耕地利用率は150%を超えており、一大食料生産基地となっている。また当地域の畜産は県下の子とり雌牛の約2割を育成しているほか、生乳の約4割を産出するなど、高い生産力を有している。</p> <p>さらにこうした地域特性を生かし、当地域では、家畜ふん尿や玉ねぎ残さを活用して製造された堆肥や炭化資材を農地還元し、良質な土づくりによる野菜の高品質化を図っている。</p> <p>一方、南淡路地域では国道以外の東西基幹道路がないため、災害や救急等緊急時の輸送路確保、通勤、通学等日常生活における利便性や安全性の向上が求められている。</p> <p>このように、本農道は、農畜産物の大消費地への安定供給や環境創造型農業促進のための有機質資源の輸送路、さらには緊急時の輸送路等として必要である。なお、未施工区間が存在する状況では幅員の狭い在来道路を通行することとなり、必要な走行性や安全性が確保できないため、引き続き全線を整備していく必要がある。</p>					
(2)有効性・効率性	<p>総費用総便益比 B/C=1.31（前回評価時点 B/C=1.15） 投資効率が1.0以上であり、事業として効果が期待できる。</p>					
(3)環境適合性	<p>法面保護の植生については、ウバメガシなどの在来種を基本に自然環境と景観の復元に配慮するとともに、吹付基材には伐採した樹木をチップ化して再利用している。</p> <p>また、側溝には小動物が自力脱出できるスロープを設け生息環境に配慮している。</p>					
(4)優先性	<p>本年度末で用地の86%を取得予定であり、県下で最も盛んな三原平野の農畜産物を更に振興するため、未施工区間の整備を進め、受益地から洲本インター等へのアクセスを向上させることが求められており、優先性は高い。</p>					
再評価の結果	継続	左の理由	南淡路地域の農畜産物を振興するため、農畜産物の大消費地への安定供給等の輸送路として、引き続き整備する必要がある。			

事業進捗状況概要図（継続：再評価〔第2回〕）

事業名	広域営農団地農道整備事業	路線・河川名	南淡路地区
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;">別添図面</div>			
	事業進捗状況・予定		整備効果
全 体	<b>H6～25年度【事業費＝約132億円】</b> 農道新設 延長 17,000m 受益面積 4,234ha 全幅 10.75m 車道幅員 3.0m×2車線		
前 回 再評価 まで (実績)	<b>H6～15年度【事業費＝約66億円】</b> 整備延長 道路工：8,422m、舗装工：6,140m 用地買収進捗率 57%（延長ベース）		供用開始率：13%
過 去 5年間 (実績)	<b>H16～20年度【事業費＝約39億円】</b> 整備延長 道路工：4,654m、舗装工：6,044m 用地買収進捗率 29%（延長ベース）		供用開始率：65% （累計）
今 後 5年間 (予定)	<b>H21～25年度【事業費＝約27億円】</b> 用地買収延長：2,333m 整備延長 道路工：3,924m、舗装工：4,816m H25年度に完成予定		<ul style="list-style-type: none"> <li>・農産物等の円滑な輸送</li> <li>・生産性の高い循環型農業の推進</li> <li>・安全で快適な農村環境の整備</li> </ul>

# 広域営農団地農道整備事業 南淡路地区 計画一般図

県内位置図



縮尺 S ≒ 1 : 80,000



玉ねぎの収穫状況



国道の渋滞状況



危険な国道を利用して通学する学生

## 野菜の一大産地



レタスの収穫状況

## 盛んな畜産業

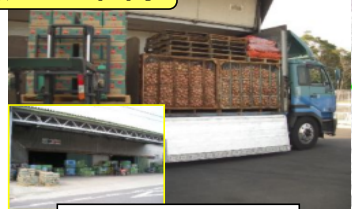


乳牛の育成状況

凡 例	
— (Black line)	H15まで
— (Yellow line)	農道 H16~20
— (Red line)	H21以降
— (Green line)	主要地方道
— (Brown line)	一般県道
— (Grey line)	市 道
— (Pink triangle)	受益農地
● (Blue circle)	主な関連施設

※太線は主な2車線路線

## 農道で集荷



賀集(かしゅう) 集出荷施設 (H14供用開始)

## 農道で市場へ



供用開始された農道を利用して市場へ出荷

農道-3

## 環境との調和



在来種のウバメガシを法面植生として使用 (伐採樹木をチップ化して吹付基材に利)



有機資材から製造された堆肥を農地還元

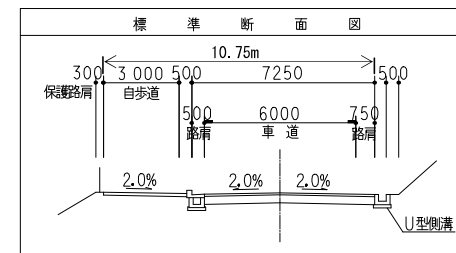
## 環境創造型農業



浦壁玉ねぎ残さ(炭化)処理施設 (H18供用開始)

池内堆肥センター (H18供用開始)

オニオンロード L=19.6km  
 農道(南淡路地区) L=17.0km 建設施工 L=2.6km  
 【道路工整備延長】  
 H15まで (黒色) L=8.4km  
 H16~20 (黄色) L=4.7km  
 H21以降 (赤色) L=3.9km





■継続事業

①当初計画及び実施工程

広域営農団地農道整備事業 南淡路地区 事業スケジュール

	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	
設計	[Hatched bar from H6 to H21]																				
	[Hatched bar from H6 to H21]																				
用地補償	[Hatched bar from H7 to H22]																				
	[Hatched bar from H7 to H22]																				
道路工	[Hatched bar from H8 to H23]																				
	[Hatched bar from H8 to H23]																				
舗装工	[Hatched bar from H10 to H23]																				
	[Hatched bar from H10 to H23]																				
備考	(工期延期理由) 地価の下落により用地交渉が難航したことや、用地取得予定地の一部に地図訂正手続きを要することにより、事業工期を2ヶ年延期する。																				

 : H15時点  
 : H20時点

②B/C根拠説明資料

便益(B)の項目

事業	B(便益)	算出方法
農道整備	①営農にかかる走行経費節減便益 ○農産物等の輸送等にかかる時間短縮による便益	整備無しの走行経費－整備有りの走行経費 走行経費: $\Sigma((\text{通作時間} + \text{輸送時間}) \times \text{時間当たり経費})$
	②一般交通経費節減便益 ○一般交通にかかる時間短縮による便益	整備無しの走行経費－整備有りの走行経費 走行経費: $\Sigma((\text{走行時間}) \times \text{時間当たり経費})$

費用便益比(B/C)算出根拠

事業	事業名	B(便益)		C(費用)			B/C
		便益額 (百万円)	代表的な効果	総費用 (百万円)	事業費 (百万円)	維持管理費 (百万円)	
農道整備	広域営農団地農道整備事業	①営農にかかる走行経費節減便益	10,336	農業輸送等の走行時間短縮 (34→30分) 農業輸送等の労働時間短縮 (830→558千時間/年)	17,340	17,340	/
		②一般交通経費節減便益	12,515				
		計	22,851				

費用便益比算定:「土地改良事業の費用対効果分析に関する基本指針の制定について」(農林水産省農村振興局長通達)